

秦野駅北口周辺にぎわいのあるまちづくり会議

令和8年度第1回

－ 目 次 －

1 タウンマネージャーの就任について

2 令和8年度スケジュールについて

- (1) 令和8年度事業スケジュール
- (2) 秦野市中心市街地活性化基本計画に位置付けているイベントスケジュール

3 令和8年度の実施に係る経過報告について

- (1) 水無川沿い空間活用の実施（夏祭り開催結果）
- (2) まちづくり勉強会の開催結果及び今後の取り組み

4 多世代交流施設整備に係る実施について

- (1) 令和8年度多世代交流施設整備に係るスケジュール
- (2) 令和8年度市民懇談会開催結果

5 中小企業基盤整備機構による支援について

6 秦野市中心市街地活性化基本計画の記載内容の変更について

1 タウンマネージャーの就任について

伊藤 大海（いとう おおみ）氏

- ・ 1976年2月 佐賀県生まれ東京育ち 東京都日野市在住
- ・ 独立行政法人中小企業基盤整備機構アドバイザー
- ・ 中小企業診断士（平成14年登録）
- ・ まちづくりLand for Next Generations.代表

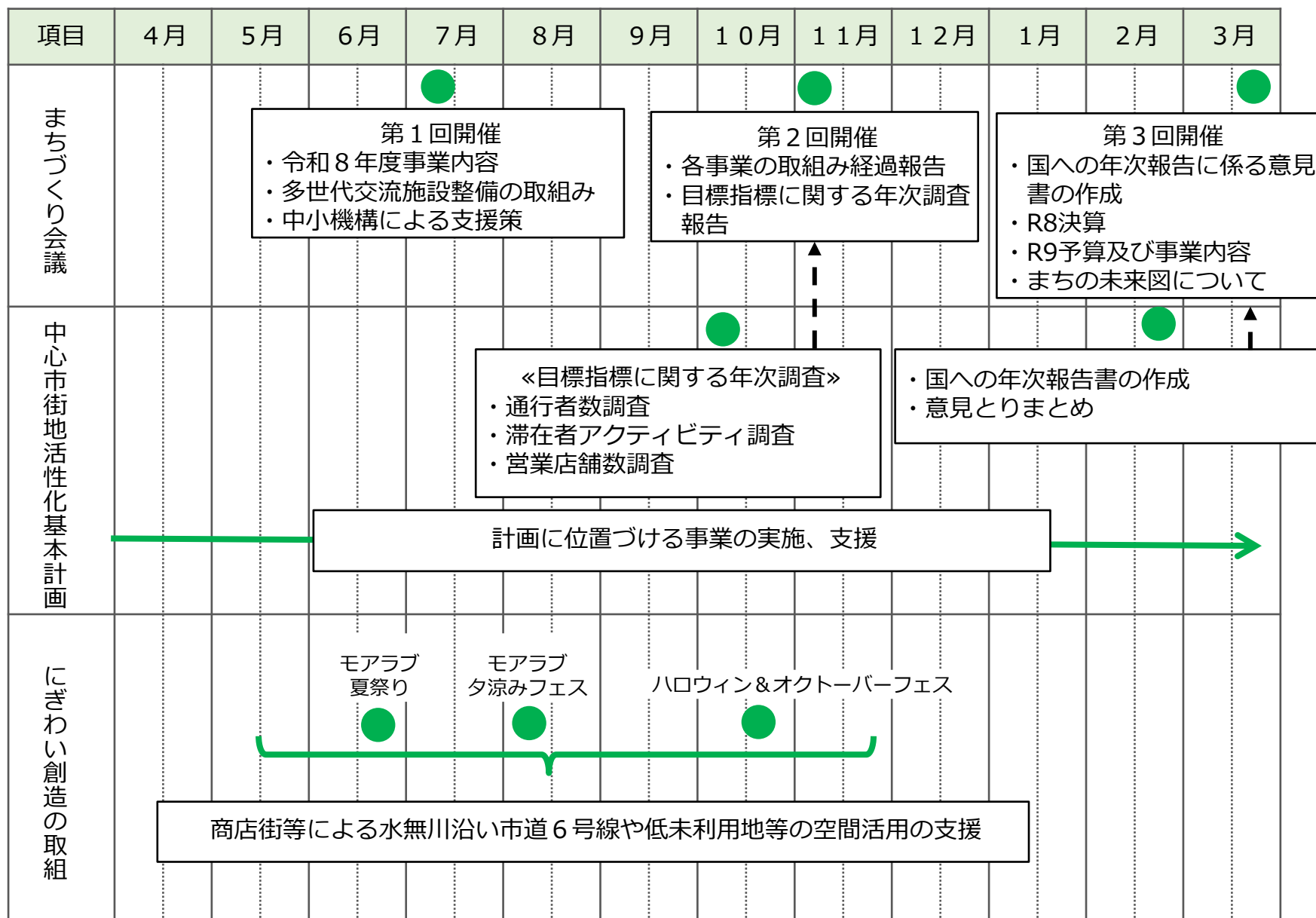


主な実績

- ・ **愛知県半田市**
中心市街地活性化市長特任顧問（副市長級）令和4年12月～令和7年11月
- ・ **大分県竹田市**
タウンマネージャー
 - ・ **独）中小企業基盤整備機構**
中心市街地活性化基本計画の認定自治体等への支援
（愛知県豊田市、三重県伊賀市、青森県八戸市、むつ市等）
- ・ **復興庁**
専門家派遣集中支援事業において陸前高田市（高田大隅つどいの丘商店街の事業計画検討、新事業立ち上げ支援のディレクション）
- ・ **東京都狛江市**
商業振興プラン策定委員会副委員長としてプラン策定支援
- ・ **神奈川県茅ヶ崎市（商工会議所）**
商業振興に係る支援
- ・ **潟上市商工会**
事業計画策定に係る支援

2 令和8年度スケジュールについて

(1) 令和8年度事業スケジュール①



2 令和8年度スケジュールについて

(1) 令和8年度事業スケジュール②

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
まちづくり勉強会・未来図づくり		●			全6回開催予定 ※資料5ページ参照			未来図づくり ワークショップ			●	
					先進事例視察						未来図の発表	

2 令和8年度スケジュールについて

(2) 秦野市中心市街地活性化基本計画に位置付けている令和8年度イベントスケジュール

月日	事業名	実施主体	主な会場
6月27日(土)、 28日(日)	モアラブ 夏祭り	秦野駅前通り商店街	水無川沿い市道等
8月8日(土)、 9日(日)	モアラブ タ涼みフェス	秦野駅前通り商店街	水無川沿い市道等
9月26日(土)、 27日(日)	第79回秦野たばこ祭	秦野たばこ祭実行委員会	秦野市役所、本町小学校、市道6号線等
10月31日(土)、 11月1日(日)	ハロウィン&オクトーバーフェス	秦野駅前通り商店街	水無川沿い市道
10月31日(土)	秦野駅まつり	小田急電鉄株式会社	秦野駅
毎月第1金曜日	上宿観音縁日	上宿観音縁日実行委員会	上宿観音堂
9月6日(日)、 10月3日(土)、 11月8日(日)	丹沢日和70GOマルシェ	丹沢日和70GO秦野駅マルシェ実行委員会	パーキングけやき、大川楼跡地

※ その他の令和8年度中に実施を予定している事業

- ・ (仮) 秦野レトロ界隈祭 (神奈川大学建築学部山家研究室等)

3 令和8年度の取組に係る経過報告について

(1) 水無川沿い空間活用の取組み（夏祭り開催結果）

モアラブ夏祭り

実施日：令和8年6月27日（土）、28日（日）午前11時～午後8時 | 会場：秦野橋～まほろば大橋

実施主体：秦野駅前通り商店街

※27日(土)は荒天のため中止

【主な内容】

飲食・物販等の出店、ステージ（キッズダンス）、
ラムネの一气飲み大会、こども落書きエリア、
こども用水遊び、OMOTANコインキャッシュバック

【出店者数】

45店舗

【主催者や出店者等の所感】

・断続的に降雨が見られる状況であったが、多くの来場者にお越しいただき、イベントが地域に定着しつつあることを実感した。

・昨年のハロウィン以降実施している参加型ステージイベントやこども落書きエリアについては好評を得ており、今後も継続して実施したい。

・夕方は駅周辺で送迎車両の往来が増加したものの、大きな混雑や混乱は見られなかった。



ラムネの一气飲み大会



こども落書きエリア



出店の様子

3 令和8年度の取組に係る経過報告について

(2)まちづくり勉強会の開催結果及び今後の取り組みについて

目的

- 参加者（まちづくりに取り組む意思のある者）が、講師やタウンマネージャーとの対話を通じて、地域課題への理解と行動の方向性を段階的に形成すること。
- 実現したい街並みとそこでの活動の様子を具体化する「未来図づくり」及びまちづくり会社組成に向けた着実なステップとして、まちづくりにおける必要な考え方や先進事例、実践に向けた仕組みについて学ぶこと。

勉強会の開催

モデルケース提示→問題提起（実態理解・構造理解）
→個別テーマ（空間の再構築・運営や担い手の形成）

視察の実施

未来図づくりワークショップ
（全5回）

地域展開（エリアマネジメント
組織の組成、プレイヤー、地域事業（空家、公共空間活用））

位置づけ		講師案	内容	各勉強会で得る視点
step1 モデルケース共有 R8.5		下田孝志 （山形まちづくり）	地域の実践事例をモデルケースとして共有し、現場理解を起点にしたまちづくりの認識プロセスの基盤を形成	地域の実践事例をモデルとして、まちづくり会社の在り方を理解する
step2 市民啓発	実態共有	松本大地 （にぎわい総研）	これからのまちの描き方（都市計画、15分生活圏、空間利活用、ミクストユース）	国内外の現場からまちづくりの実態を知り、地域課題を具体的に捉える
R8.8	構造理解	藻谷浩介 （日本総合研究所）	地域の資源と低未利用物件活用で秦野を選ばれるまちにする（人口動態・地域経済・構造変化などの俯瞰的視点）	地域の構造的課題を体系的に理解する
step3 空間活用	視点転換	宋 俊煥 （山口大学准教授）	余白空間利活用を楽しみ魅力化する取組み（道路空間、公共空間、駅前広場、低未利用地、エリアマネジメント）	まちの空間の在り方を多角的に解釈する視点を理解する
R8.9	空間の具体化	高尾忠志 （一社地域力創造デザインセンター）	暮らし続けたいくなる、自慢したいくなる景観づくり、空間デザイン	景観づくりの観点から空間の使い方の具体化を理解する
R8.10	地域資源再生	辻信行 （有限会社くま）	博物館ではないライブ感、リノベーションの進め方	既存の建物や空間の生かし方を理解する
step4 人づくり R8.10	運営・担い手形成	飯田峰子 （横浜まちクリエイティブ）	まちで起こすスモールビジネス、コミュニティビジネス、スモールプロジェクト（住民・担い手・組織づくりの視点、継続可能な活動）	地域の実践事例をモデルとして、運営や担い手の形成について理解する

3 令和8年度の取組に係る経過報告について

(2) まちづくり勉強会の開催結果及び今後の取り組みについて

1 日時

令和8年5月26日（火）午後7時から午後8時50分まで

2 場所

秦野市農業協同組合さわやか館

3 講師

- ・ 山形まちづくり株式会社 下田 孝志 常務取締役
- ・ 秦野市中心市街地活性化タウンマネージャー 伊藤 大海 氏

4 参加人数

60人（市内商店街会員、秦野商工会議所青年部役員、市内企業、小田急電鉄、大学生、市民等）

5 内容

(1) まちづくり会社の役割について（伊藤タウンマネージャー）

- ・ 人口減少に伴い、まちづくりを担う人材の確保・育成がより重要な課題である。
- ・ 民間の多様な主体の参画がより重要となっている。（行政単独のまちづくりには限界がある）
- ・ 利益（民間）と公益（行政）の両方の要素を含む領域を担い、多様な立場の人々を巻き込みながら持続可能な経営活動を行う。

(2) まちづくりとまちづくり会社について（山形まちづくり株式会社 下田氏）

- ・ 中心市街地活性化により、税収が確保され、インフラ整備や住民サービスの向上に繋げる。
- ・ まちに関わる人々と丁寧に「ビジョン」を作り共有することが実践に繋がるため重要である。
- ・ 「ビジョン」の実現に向け、暮らしと日常の豊かさを求めていくことが必要である。
- ・ 一緒にやる人達の「これがやりたい」を実現する取組みを重視している。
- ・ こどもが成長して一度まちを出ても、再び戻ってきたくなるよう、まちへの愛着を持ってもらうことを重視してこどもや若者にアプローチしている。



3 令和8年度の取組に係る経過報告について

(2) まちづくり勉強会の開催結果及び今後の取り組みについて

(3) 質疑応答・意見交換

Q1 ビジョンを多くの人と共有することは難しいのではないかと？

A1 一つの事業を共同で取り組むことは難しいが、ビジョンの共有はそれほど難しいものではない。

Q2 中心市街地の活性化の効果はどのように郊外に波及していくのか？

A2 中心市街地の取組みがモデルとなれば、他の地域でも真似することができる。

Q3 同じ経済圏で元々面識がある人も多い中、どうやって多様な人達を繋げていくのか？

A3 豊かな暮らしについて、自発的な思いを引き出せるかが重要。

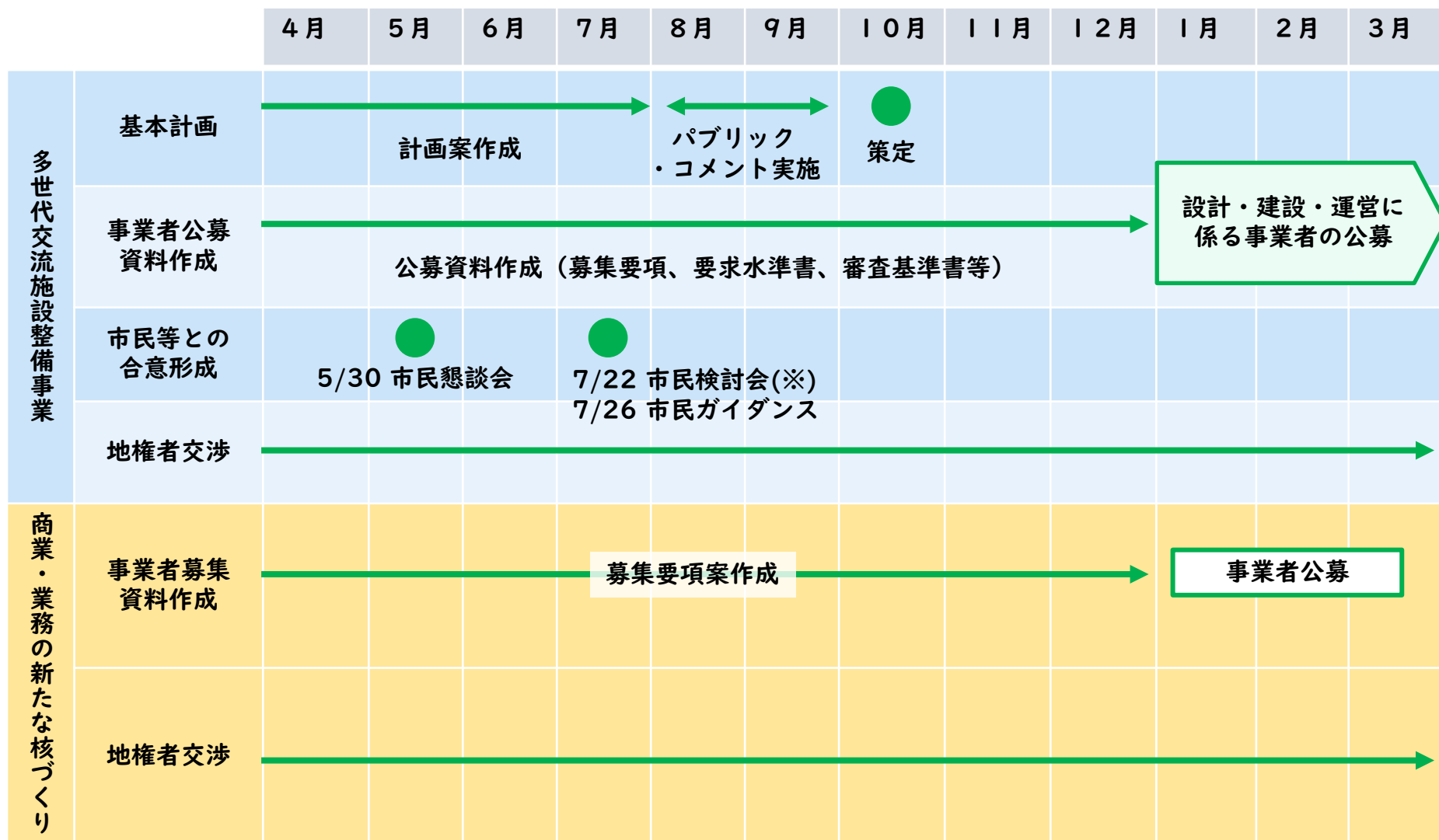
また、地域の重鎮が率先して調整をしてくれる地域は円滑に物事が進む。

(4) アンケート結果

- ・にぎわいではなく、秦野好きを増やす仕掛けや、秦野のファンを増やすことが肝だと感じた。
- ・秦野市をより良くするためにはどうしたらよいか、どういう考え方を持てばよいのかを知るきっかけになった。
- ・若者を巻き込み、若者主導で進めていくことの大切さを知った。
- ・背中を押してくれる勉強会でした。自分達の現在地も確認できました。やはり、思いがあるなら自ら動けの精神ですね。
- ・次の3点が印象に残りました。
 1. 全員合意が前提ではない。出資をしたり、お金をかけてリスクを取っている人たちが決めたことで動いていく
 2. 世代ごとに役割がはっきりある
 3. 次の世代の為とはこれから生まれる子供達の為

4 多世代交流施設整備に係る取組みについて

(1) 令和8年度多世代交流施設等の整備に係るスケジュール



※ 施設の機能等に係る団体から選出された委員による検討会議

事業用地の確保状況により、スケジュールは変更になる場合があります。

4 令和8年度 多世代交流施設整備に係る取組みについて

(2) 多世代交流施設市民懇談会開催結果

1 日時

令和8年5月30日(土) 午後1時30分から午後3時15分まで

2 場所

はだのこども館 多目的ホール

3 参加人数

15人

4 内容

多世代交流施設へ導入する機能について、参加者がグループにわかれて、1F・2F・4Fの各フロアごとに意見交換を行った。(3Fはハローワークの機能が入るため、今回は意見交換せず)

5 意見等

(1) 1F ウェルカムフロア(仮称)

～開かれた雰囲気づくりや気軽に入りやすいフロアとして、こどものプレイルームや図書のある空間などをイメージ～

ア こどもも大人も楽しめ、ネット遊具など他にはないものを取り入れると良い。

イ 図書館のような空間ではなく、ブックカフェのような空間が良い。

また、道路沿いから見えるような立ち読みスペースや、飲食ができる場所もあると良い。

ウ 気軽に立ち寄れる場所であってほしい。中でゆっくりくつろげる空間だと良い。

(2) 2F クリエイトエリア(仮称)

～交流と多くの機会を創造できるフロアとして、中小規模な会議室や音楽スタジオ、コワーキングルームなどがある空間をイメージ～

ア これまでの公共施設よりも簡単な予約方法が良い。

イ コンサートや発表会、プレゼン大会ができるように、大きな空間があると良い。

ウ 家族や友だち以外に相談できる場所を設けても良い。

エ コワーキングルームやレンタルルームの利用料は、市内で起業する予定の人に対して優遇しても良い。

オ 1Fの図書のある空間と異なる空間として、静かに過ごせる空間を設けたら良い。

(3) 4F ワーキングエリア(仮称)

～多くの人が話し合えるフロアとして、大規模な会議室や屋上がある空間をイメージ～

ア 4階の会議室を間仕切りなどで分けて、小さくも大きくも使えるようにしたら良い。

イ 屋上には丘の広場を設けたり、芝生を敷くなど、斬新な空間にすると良い。

ウ 屋上で、富士山や丹沢山麓が見えるような空間がほしい。

エ 秦野駅北口周辺には公園がないので、屋上は開放的でこどもも大人も楽しめる空間が良い。



5 中小企業基盤整備機構による支援策について

1 独立行政法人中小企業基盤整備機構(中小機構)の支援内容及び進め方

令和7年度

- ・ 現地確認
(中小機構職員)
- ・ オンライン相談
(専門家及び
中小機構職員)
- ・ 巡回型支援
専門家が秦野市を訪問し、
まちづくりの担い手等と
意見交換

令和8年度

採択

パッケージ型支援

【1年～3年間の伴走型支援】

複数の専門家で構成するプロジェクトチームにより、概ね月1回程度、現地巡回やオンライン会議等を通じて、伴走支援のもと、取組みを推進する。

2 パッケージ型支援で受ける支援予定内容

(1) まちの未来図づくりやまちの将来像（ビジョン）の共有について

- ア 参加者・関係者間でのまちの将来像の共有方法や作成について
- イ 地域関係者との対話・合意形成の進め方について
- ウ 完成した未来図の見せ方や印刷物にする際の工夫といったアウトプット手法について

(2) エリアマネジメント組織の組成に向けた支援

- ア 専門的知見の共有・先進事例の紹介について
- イ 組織設計・出資・事業立ち上げといった会社設立のプロセスについて
- ウ 持続可能な経営や中心市街地活性化の仕組みづくりについて

6 秦野市中心市街地活性化基本計画の記載内容の変更手続きについて

秦野市中心市街地活性化基本計画の記載内容について、国の支援措置名の変更に伴い、次のとおり、朱書き箇所の変更申請を行います。

なお、計画に位置付ける事業内容の更新や必要に応じた追加等の修正を行う場合は、次回の会議においてお示しします。

【事業名】 電子地域通貨関連事業

【事業実施時期】	令和7年度～令和11年度		
【実施主体】	秦野市		
【事業内容】	地域経済及び地域コミュニティの活性化などを推進するため、電子地域通貨を導入する。		
活性化を実現するための位置づけ及び必要性			
	【目標】	生活利便性の向上	
	【目標指標】	居住満足度	
	【活性化に資する理由】	地域内に限定した通貨により、市外に流出しているお金を地域内に循環させ、域内経済の好循環に寄与。この取組の継続のための事業者交流のほか、市民との交流機会が生まれるほか、市内店舗でしか買えない商品、サービスづくりや個店からの情報配信により、個店のファン作りや誘客促進につなげる。	
【支援措置名】	新しい地方経済—生活環境創生交付金(第2世代交付金) 地域未来交付金（地域未来推進型）		
【支援措置実施時期】	令和5年度～令和9年度	【支援主体】	内閣府